

◆◆◆神無月◆◆◆

■朝の校門。

「校長先生、ほら。」子どもたちが見せてくれる生き物たち。
この間までは「セミの抜け殻」「ダンゴムシ」たちだったのですが、いつの間にか
「バッタ」「コオロギ」たちにかわっています。このことも、私なりの秋見つけ、です。

■10月になりました。

10月の異名、最も有名なものは「神無月」でしょうか。
その意味するところはよく知られていますが、
改めて調べてみました。

神無月は、もともと「神の月」という意味。
古代では「の＝な」で、神な月（かむなづき）だった
と考えられています。
6月の水無月＝水の月も同様です。
なぜ神の月かという、神聖な五穀を収穫し、神々に
ささげて感謝する大事な季節だったからとされています。



■私たちには「神無月」。

でも島根県、出雲地方では神無月でなく神在月（かみありづき）と呼ばれていることもよく知られていること。これは次のような理由からだそうです。

10月には全国の八百万（やおよろず）の神々が出雲大社に集まり、いろいろなことを
神議（かみはか）りする…という言い伝えが平安時代には生まれていました。
そこでは、人が計り知ることのできない「神事」が話し合われると言われています。

10月に全国の神様が出雲に集まるから出雲は「神在月」。
いなくなった出雲以外のところは「神無月」。
ただ、出雲に参集される神様は山野や河川等に住む「国津神（くにづかみ）」。
高天原（たかまがはら）から降臨した天津神（あまつかみ）は、お出かけにならないそう。
また恵比須（えびす）様や金比羅（こんぴら）様、道祖神（どうそじん）、かまどの神様なども
ずっと留守番をしてくださるそうです。
出雲の国に集まられた神様。今年はどんなことを神議りされておられるのでしょうかね。